

## LIFE に連携した個別機能訓練計画書（施設版）の作成方法

LIFE に連携する個別機能訓練計画書を作成し、評価を入力します。

個別機能訓練計画書の作成・評価 → <<サービス計画>>機能訓練

### ■個別機能訓練計画書を作成します

①個別機能訓練計画書画面右上 [新規]をクリックし、新規作成入力ダイアログで「作成日」を入力します。

②機能訓練計画書の項目を入力します。

「利用者本人の希望」などファーストケアでは225文字入力できますが、LIFEへ送信する内容は200文字まで、と文字数に制限がかかっている箇所があります。

全入力内容が連携されませんので、LIFEに送信する内容は始めに入力してください。

※連携項目上限文字数は項目によって異なります。別紙「個別機能訓練計画書（施設版）の入力文字数」をご参照ください。

③[状況]タブにある病名（ICD10 コード）と記載された場所は、ICD10 のコード番号を入力します。

※ICD10 コードは、別紙「LIFE に入力するコードの説明等について」をご参照ください。

④[訓練目標]タブにある長期目標・短期目標はICF（国際生活機能分類）を選択して入力します。項目によって選択範囲が決まっているので、別紙「長期目標・短期目標の選択範囲」を確認して選択します。

※目標設定は3つまで選択できます。

※帳票に出力する文言は左横の自由入力欄へ記載します。

⑤[訓練内容]タブで訓練内容を入力します。

はじめに[行追加]ボタンをクリックし、入力行を表示します。

支援コード、プログラム内容、留意点、頻度、時間、主な実施者を入力します。

支援コードはリハビリテーション計画における具体的支援内容をコード化したものです。各項目の詳細は、別紙「LIFEに入力するコードの説明等について」をご参照ください。

例)

- 呼吸機能訓練 → 無呼吸、過呼吸、不規則な呼吸、肺気腫などの呼吸機能障害を対象として、呼吸数、呼吸リズム、呼吸の深さなどの呼吸機能を維持・向上させることを目的とした訓練である。

なお、LIFEにはNO.1～NO.4の訓練内容（4行）を提出します。NO.5以降の訓練内容はLIFEには提出されません。

#### ■個別機能訓練実施後の評価を入力します

- ①[訓練目標]タブにある長期目標・短期目標に対する達成度を入力します。達成度は3回まで入力できますが、LIFEへの提出はCSVファイル出力時点で最新の評価1つだけになります。

②[実施後の対応]タブで「個別機能訓練の実施による変化」「個別機能訓練実施における課題とその要因」を入力します。LIFEへ提出する文字数は1文字目から100文字です。



The screenshot shows a software interface with a tabbed menu at the top. The tabs are labeled: 状況 (Status), 訓練目標 (Training Objectives), 訓練内容 (Training Content), 特記事項 (Special Notes), and 実施後の対応 (Implementation After). The '実施後の対応' tab is selected and highlighted with a red box. Below the tabs, there are two side-by-side text input fields, also highlighted with a red box. The left field is titled '個別機能訓練の実施による変化' (Changes due to individual functional training implementation) and the right field is titled '個別機能訓練実施における課題とその要因' (Issues and their causes in individual functional training implementation). Both fields are currently empty.

■個別機能訓練計画書と評価を作成後、[LIFE 提出管理]画面から CSV ファイルへ出力し、LIFE 専用 Web サイトで取り込みます。